

..... 会 告

平成 14 年度総会および春季講演会のお知らせ

平成 14 年度通常総会（第 123 回）ならびに春季講演会を下記により開催いたします。

会 場 東京地学協会講堂

開催日 平成 13 年 5 月 25 日（土）

総 会 14：00～

議題：第 1 号議案 平成 13 年度事業報告並びに収支決算承認の件

第 2 号議案 平成 14 年度事業計画並びに収支予算承認の件

第 3 号議案 名誉会員推薦の件

新定款では定足数が過半数に変更されました。出席できない方は、必ず別送の委任状をご返送くださるようお願いいたします。

講演会 14：30～16：00

平川一臣（北海道大学大学院地球環境科学研究科）「氷河地形をめぐる最近の話題」

〔要旨〕氷河地形・地質の研究においては、1985 年にパラダイムシフトが生じたとされる。それは、西南極氷床の流動を駆動しているのは氷河底部、氷河底下の“堆積物”であるという認識から始まった。これによって、現在の氷河の流動に関する問題だけでなく、過去の氷床下の堆積物・ティルの見方、考え方に劇的な観察と解釈・思考の転換が始まった。この講演では基本的コンセプトを紹介しつつ、日高山脈の氷期の小さな山岳氷河でさえこのような観点が重要であることを中心に解説する。さらに、古くて新しい“氷河堆積物”中の火山灰、C-14 年代の意味について考える。

評議員会は 13：00 から会議室で開催されます。

第 6 回海外巡検「スイスアルプスを歩く」のご案内

内 容：1. スイスアルプスの氷河、永久凍土、氷河地形などの観察を通して、地球の環境変化を考える。
2. アルプスの高山植物を観察する。
3. アルプスの土地利用の特色、山岳国立公園の管理を視察する。

場 所：スイスアルプス南東部のベルニナ山群地域（サンモリッツ周辺）

案内者：平川一臣（北海道大学）・松岡憲知（筑波大学）

費 用：約 30 万円以内

募集人数：約 20 名

企画主催：東京地学協会

旅行主催：名鉄観光サービス（株）札幌支店

日 程：一週間（7 月 20 日頃から 7 泊 8 日（6 泊 + 1 機中泊）の予定）

1 日目 日本 スイス（Zurich 泊）

2 日目 Zurich ベルニナ（St. Moritz 周辺へ移動）

午後、Pitz Nair：山岳展望、足慣らしの散歩（エーデルワイス観察）

3 日目 Pitz Corvatsch, Murtel ~ Koaz Hutte：小氷期の氷河前進、岩石氷河、地球温暖化モニタリング観測

4日目 Morteratsch Glacier：氷河上横断ウオーク，過去 160 年間の氷河変動

5日目 スイスの山岳国立公園視察

6日目 Zurich へ移動（Segantini 美術館または Luzern 氷河公園）

7日目 Zurich 日本

申込締切：2002 年 6 月初旬の予定

参加者は，毎日 3 ～ 4 時間程度ハイキングを続けることができる体力が必要です。細かい点は変更の可能性がります。詳細・参加申込書類等をご希望の方は，氏名・住所・年齢・電話番号・職業を，郵便・ファックス・電子メールいずれかの方法で，東京地学協会まで御連絡ください。

〒 102 0084 千代田区二番町 12 2 東京地学協会「スイスアルプス巡検」係

Fax：03 5226 9120

E-mail：tyo-geog@ka2.so-net.ne.jp

地学クラブのお知らせ

下記により地学クラブを開催いたします。多数ご参加くださるよう，お待ちいたしております。なお，講演終了後，1 時間ほど講演者を囲み懇談の時間を設けますので，ご自由にご参加ください。

・ 5 月 休み

・ 6 月 20 日（木）14：00 ～ 15：30

「富士山レーダーの設置と運用をめぐる」 気象業務支援センター，元気象庁長官 立平良三

南方洋上から首都圏に接近する台風を早期に探知するため，1964 年に富士山レーダーが設置された。低温・低圧・強風の高山における困難な設置工事であったが，運用開始後は期待通りの性能を発揮し，100 m/s の強風にも耐えて首都圏の台風予報に貢献した。富士山レーダーが遙か南方海上で捉えた台風の全貌は，米国のレーダー気象学の教科書にも引用された。1999 年，35 年に及ぶ活動の幕を閉じたが，2001 年には IEEE（電気電子技術者協会）から Milestone に選定された。

・ 7 月 19 日（金）14：00 ～ 15：30

「高レベル放射性廃棄物地層処分場選定の考え方」

東電設計（株）最高顧問；土木学会原子力土木委員会・地下環境部会地質 WG 吉田鎮男

・ 8 月 休み

・ 9 月 20 日（金）14：00 ～ 15：30

「未踏の海底下深部を目指して 最新鋭掘削船「ちきゅう」の挑戦」

東京大学海洋研究所；海洋科学技術センター OD21 推進本部長 平 朝彦